

一般質問

加藤議員

教職員の勤務条件改善について

その他の質問
 ・国民健康保険税の値上げについて
 ・消費増税について
 ・福井県社会保険病院の新機構への移行について
 ・産業廃棄物の処理について

Q 質問

①全日本教職員組合（全教）による教職員の勤務実態調査では、教職員の1か月の平均時間外勤務時間（校内）は、69時間32分、家に持ち帰った分を加えると、時間外労働は月平均91時間13分。厚生労働省の過労死ライン（月80時間）を10時間以上超過するレベルである。部活動顧問をしている教職員の時間外労働は、月平均95時間56分にも上っている。教育長の見解を伺う。

②臨時教員（常勤講師）の雇用が年度末にいったん切れると社会保険加入資格が切れて不利益が生じている。改善すべき。市が雇用する臨時職員にも不合理は起きていないか。

③常勤講師は正規教員と同等の仕事をしている。同じ待遇にすべき。常勤講師を何年も継続雇用せず、正規教員に採用すべき。

A 答弁

①勝山市では教職員の本務である子どもたちと向き合う時間を十分に確保していくため、全小中学校が校務内容を見直し、効果的な学校運営を目指して努力している。教職員の多忙化解消は

重要な課題であるため、引き続き教職員定数増への取り組みと業務の合理化に努めていく。

②福井県が雇用する臨時教員（常勤講師）については、契約期間の空白があっても、再雇用が予定されていけば社会保険には継続して加入する措置がとられてきている。勝山市が雇用する臨時職員についても、社会保険の加入資格を満たしており再雇用が予定されていれば、雇用契約期間の空白があっても社会保険への加入は継続して行ってきた。

③少人数教育の一層の推進など、教職員定数の拡大を国や県に要望する中で働きかけていきたいと考えている。



勝山中部中学校

松山議員

エコパークとジオパークについて

その他の質問
 ・環境基本計画の改定について

Q 質問

「大地の遺産」保全しながら活用して地域の持続的発展をめざすジオパーク。生態系の保全と持続可能な利用方法の両立を実践していくエコパーク。それをエコミュージアムのまちづくりのように活用するのはか。

A 答弁

ユネスコ・エコパークは「生態系」に着目し、ジオパークは「大地」に着目を置くといった視点の違いはあるが、どちらも地域の持続可能な発展を目標とした活動であると考えている。

日本ジオパーク委員会からの指摘事項に真摯に対応する中で、大地や生態系を合わせた「勝山市の風土」をベースに進めている市の政策の根幹であるエコミュージアムによるこれまでの成果を踏まえ、三者の調和のとれた活動を進めていく。

Q 質問

①高速交通体系進展による効果を最大限に活かす施策やシティーセールスをどのように考え、また受け入れ態勢をどのように整えていくのか。

観光について

A 答弁

②文化庁の「勝山左義長を活かした観光振興・地域活性化事業」での成果物を今後どのように活かしていくのか。

①勝山市としては「恐竜ブランド」を前面に打ち出している福井県の観光戦略と協調し、情報発信を強化すると共に、各事業のブラッシュアップ（質の向上）と体系的な観光戦略を構築していかねばならないと考えている。

また交通対策、駐車場対策、食事やお土産対応など総合的に検討し、これらの対策とリンクする形で「(仮称)恐竜の駅」の整備について議会に諮りながら方向性を定めたい。

②平成23年度から3年間、文化庁の補助金により、勝山左義長の解説本・写真用パネル、子ども向けの絵本、絵行燈・作り物の冊子の制作等行ってきた。今後ともこれらを活用し、勝山左義長の継承に努めていく。



左義長絵本（表紙と裏表紙）